

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

トップの決断力 (黒田如水) 童門 冬二 (作家)

1. 決断力といえば、戦国末期から江戸時代初期にかけ活躍した黒田如水を思い起こす。「日本一鋭い頭脳を持つ男」といわれた。情報力と分析力に優れ、瞬時に決断する。「先読み」の的確さは余人の追随を許さない。そのため信長・秀吉・家康の 3 人の天下人に警戒された。隠居後、子の長政に家督を譲った。長政は独裁をやめ「衆議に従う」という方針を立てて、城中 (福岡市) に「異見会」を設置した。
2. ①身分を問わず誰でも参加できる②藩政について自分の考え (他人と異なる意見) を発表する③トップ層の批判も構わない④批判されたトップや重役は決して怒ってはならない⑤会議で発表された秘密事項を漏らしてはならない、などが異見会で守るべき事項だった。ある日の異見会で若い武士が目からウロコの異見を述べた。感激した長政は、「彼の意見に従いましょう」と言った。
3. 如水はいつも会に出席していたが、発言はしなかった。しかし息子の議長ぶりにしだいに不安を感じ、この日の長政の発言にキレて、叱責した。それは「決断権はトップ固有の権限で、部下には絶対に譲れないものだ。おまえは皆によく思われようとして、自らそれを失っている。今日の発言は完全に決断権を放棄している。そのことこそ黒田家最大の危機だ」というものだった。さらに「この頃の会議はやたらと長引き何も結論が出てない。おまえのせいだ」と。長政は反省した。

(参考:「週刊東洋経済」2016 年 10 月 8 日号)

人事・労務について

働き方改革を進める

永守 重信 (日本電産会長兼社長)

1. 長時間働くだけで勝てる時代でなくなった。うちの場合、モノ作りの生産性はかなり高いけど、間接部門はまだまだ。だから、残業がなくなった分で英語の専門知識を勉強してくれと言っています。今の最大の課題は語学力。世界の従業員 11 万人のうち、日本人は 1 万人。例えば技術者が英語ができるようになれば、お客のところへ 1 人で行ける。それなら給料も上げてもいい。
2. 会社が「早く帰れ」と言うのは、世の変化に順応するため。脱皮しないとヘビは死ぬ。根っこは変えないけど、葉っぱは変える。日本電産を最も働きやすい会社、最もいい会社にしたい。今、本社の前に立派な経営大学校を作っています。仕事が終わったら、そこでも教育するのです。働き方改革というのは足りない能力を付け加えるためにやるわけです。

(参考:「日経ビジネス」:2016 年 10 月 24 日号)

経営者のための営業学

コンビニの力と凄さ

1. 日本にコンビニが登場して、わずか 40 年余。いまやコンビニは、日本人の日常に欠かせない存在にまでの上り上がった。その証拠に年間売上高は実に 10 兆円を超す。街から小売店が減る中でも店舗数は増え続け、2014 年にはついに 5 万店を突破した。年間来店数は驚異の 167 億人。日本人は 2.8 日に 1 回もコンビニに来店している計算になる。
2. 1 店の売り場面積は狭いが、売るパワーはとてつもなく大きい。例えば、代表商品であるおにぎりは、大手 3 社合計でなんと年間 343 億個も売り上げる。店舗数はこの 10 年間で 1 万 3667 店も増加。利益は、GMS (総合スーパー) の大手 3 社の平均営業利益額 (5 億円) の 238 倍に当たる 1188 億円 (大手 3 社平均) である。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2016 年 10 月 29 日号)

古典に学ぶ

封建制は圧制ではない

(解説) 私はどんな種類の専制をも断じて支持するものではない。そして、封建制を専制と一つと見るのは誤りである。フリードリヒ大王が「王は国家第一の召使である」と書いたとき、自由の発達上一つの新時代が達せられた、と法学者が考えるは正しい。ふしぎなことに、時を同じくして、東北、日本の辺地で、米沢の上杉鷹山ようざんが全く同じ宣言を行い、封建制は決して僭主専制や圧制ではないことを示した。

(参考:佐藤全弘 (訳) 新渡戸稲造「武士道」: 教文館)